

浦和駅東口

から 高 本太 郷 界隈 を歩く 約4km

高 本太 郷 界隈

を歩く 約4km

MAP 1 公共と商業の融合
1 コムナーレ

浦和駅東口前に大型商業施設と融合する複合公共施設「コムナーレ」が平成19年(2007)秋に誕生しました。8階は「中央図書館」、9階には「市民活動サポートセンター」、10階には「浦和コミュニティセンター」(一部9階にもあり)があり、新しい公共のフロアとして市民の皆様にも活用されています。



▲中央図書館内の様子

MAP 2 煩悩と災難をはらうお不動様
2 大善院

この地は、街の人からお不動様と親しまれている信仰の場。境内を廻る玉垣の奉納者の名はその証。

明治初めに廃寺となった修験の寺、玉林院および西林院等から諸仏像が移され、不動明王を本尊とし開山。役行者像及び二鬼像も安置されています。

境内には源平枝垂れ桃があり、春には紅白の花を咲かせます。



▲大善院

MAP 3 東の台地の道しるべ
3 延命寺のムクノキ

天長6年(829)創建と伝えられる古刹。度々大火に遭い、平成7年(1995)に再建されました。門前のムクノキは、樹齢400年とされる大樹で、以前は浦和からも望めました。

ここには緑茶中にカテキンがあることを発見した、女性では日本初の農学博士・辻村みちよの墓所もあります。



▲延命寺のムクノキ

MAP 4 三十三の化身で救う観音様
4 本太観音堂



▲本太観音堂

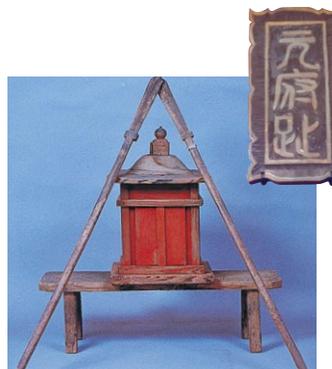
この地は、もと瑞岸寺跡。ここにある聖観音菩薩は、南北朝期の優れた坐像で、本尊として納められています。

また、連経講の行われる様子が描かれた絵馬なども残されています。

MAP 5 中世高埔郷をしのぶ
5 本太氷川神社

「元府跡」の扁額がかかる鳥居をくぐると、そこは落葉樹ソコの木が茂る厳かで静かな境内。中世にはこの周辺を高埔郷と呼び、その区域は大宮から浦和に及んでいました。旧本殿は一間社流れ見世棚造りで、慶安3年(1650)の建立といわれます。その中には宮殿が案に載せられ、その前に一對の木鉢が組んで立てかけるように納められていました。宮殿屋根内の墨書銘には宝徳3年(1451)地頭高埔盛影が造立と記されています。

▼鳥居扁額



▲案、宮殿、木鉢

JR浦和駅を起点に、
新たな文化・情報空間と本太界隈を散策します。

武蔵武士団の足跡と屋敷林の景観に、
高埔郷の残照を探訪します。

住宅街に残る歴史と、豊かな緑を発見するコースです。

初版発行日…平成20年(2008)3月

編集・発行…浦和区文化の小径づくり推進委員会



1 コムナーレ



2 本太氷川神社



3 四季折々の屋敷林(本太)

浦和区文化の小径づくり推進委員による
ガイドと浦和の風景が楽しめます!

※YouTubeにリンクします。
※通信料は自己負担となります。



令和6年(2024)9月改訂

MAP 6 武蔵野の緑を残す
6 本太保存緑地

ケヤキ・ムクノキ・シラカシ・シロダモ・ヒノキ・サワラ等が群生する屋敷林は、周辺をゆっくと散策をするだけで、小さな森林浴。樹木の香りは心を落ち着かせ、枝葉のざわめきは気持ちをやわらげ、リラックス効果をもたらします。



▲本太保存緑地
※個人宅のため入ることはできません。

MAP 7 石鳥居が歴史を伝える
7 三角稻荷神社

かつて本太村の村人たちが三角地に社を建立し祀るようになったと伝えられています。石鳥居は明和7年(1770)の銘があり旧浦和市内で現存する最古のもの。覆屋の中の本殿は18世紀前期頃の建立とみられます。秋にはイチョウやクヌギ、コナラなどの落ち葉で境内が敷き詰められます。

児童文学作家・翻訳家の石井桃子は自書「幼ものがたり」で虫にくわれたり崩れた雛を稲荷の縁の下に収めたと記しています。



▲三角稲荷神社

column

樹木探訪

この界隈には、延命寺のムクノキ、山神社のケヤキ、本太氷川神社の社叢、八雲神社のイチョウのほか、植生、景観などが優れた地として指定された本太保存緑地など多くの樹木が残されています。



▲山神社のケヤキ



▲八雲神社のイチョウ



▼本太氷川神社の社叢

